

性交渉の経験のない女性に対するイメージ

—人々は処女に何を思うか—

変態学研究所

本リサーチは、近年増加傾向にある性交渉の経験のない女性に対して人々が抱くイメージにおいて、その女性の年齢（25歳、35歳、45歳）、回答者の性別および回答者自身の性交渉の有無による差を検討した。ウェブ調査会社を通じて得た200名のデータ分析の結果、以下が示された。相対的に高い年齢で性交渉の経験のない女性は、恋愛を諦め、男性を必要としていないなどネガティブなイメージを抱かれる傾向にあった。他方で、性交渉のある回答者は、男性や恋愛に対して真面目で慎重、理想が高いといった、文脈によってネガティブにもポジティブにも捉えうるイメージを抱いていることが示された。また、男性は女性よりも、性的魅力に欠ける、どう接して良いか分からないというイメージを抱いていることが示された。さらに男性では、相対的に低い年齢で性交渉の経験のない女性に対して、結婚や恋愛に向いているというイメージを抱いていることが示された。

1. 序論

1.1 問題と目的

近年我が国において晩婚化や少子化が問題となる中、性交渉の経験のない成人女性の割合が過去20年間で増加傾向にあることが明らかになっている（Ghaznavi et al., 2019）。ここで1つの疑問が生じる。つまり、そもそも性交渉の経験のない女性がどの程度いるかという疑問である。20代から60代の男女を対象とした調査において、性交渉の経験のない女性の割合は1%程度であることが明らかになっている（ジェクス株式会社, 2020; 相模ゴム工業株式会社, 2018）。これらから、20代以降に限定した場合、性交渉の経験のない女性が増えている一方で、たとえ増えているとしても、そのような女性は性交渉の経験のある女性と比べると少数であると言える。

このような中、たとえば「処女」でインターネット検索をすると、性交渉の経験のないことについてのコンプレックスの語りが多くあげられているのが分かる。また坂田（2020）によると、性交渉の経験がないことの悩みが結婚相談所に度々よせられているとのことである。そして、それらコンプレックスや悩みの多くが、性交渉の経験がないことに対する

他者からの評価に関わるものである。以上および、性交渉の経験のない人に向けられる偏見を含む低い評価を、性交渉の経験のない人自身が内在化することにより精神的健康が損なわれることから（若尾, 2014; 若尾・天野, 2012）、性交渉の経験のない当事者にとって他者からの評価の重要性がうかがえる。

では、人々は性交渉の経験のない女性をどのように捉えている、言い換えるとそのような女性にどのようなイメージを抱いているのだろうか。これまで日本国内で性交渉の経験のない女性に対するイメージに焦点をあてた研究は散見されるにとどまる。そのような中では、性交渉の経験のない女性に対してどのような性格特性がイメージされるかを検討したものがあ（若尾, 2013; 若尾・天野, 2012）。ただしこれら研究は大学生を対象としたものであるため、得られた知見が一般化するかは検討の余地がある。また、いずれの研究においても、性格特性に限定してイメージの検討がなされている。したがって、性格に関わらないイメージについては明らかではない。

以上を踏まえて本リサーチでは、性交渉の経験のない女性に焦点化し、そのような女性に対してより幅広い年齢層の人々が抱く、性格特性に限定されないイメージを研究対象とする。そのうえで、より具

体的には、性交渉の経験のない女性に対するイメージにおいて、その女性の年齢、回答者の性別および回答者自身の性交渉の経験の有無により差があるかを検討する。

1.2 用いる変数

上述のように本リサーチでは、性交渉の経験のない女性に対するイメージに影響する変数として次の3つを用いる。すなわち、回答者に提示する性交渉の経験のない女性の年齢、回答者の性別および回答者自身の性交渉の経験の有無である。これら3つの変数を用いる理由は以下である。

1.2.1 回答者に提示する性交渉の経験のない女性の年齢 若尾 (2013) では、大学生と同年齢の性交渉の経験のない女性に対するイメージを尋ねている。そのうえで、20歳で性交渉の経験がないことと30歳で性交渉の経験がないことでは、その社会的な意味や位置づけは全く異なるであろうと述べている。そして、様々な年齢設定を用いて性交渉の経験のない女性のイメージを調査する必要性を述べている。実際、30歳以上で性交渉の経験のない男女を描写したテレビドラマ「オトナ高校」(テレビ朝日系)に対して、視聴者の反応が好悪分かれている(米倉, 2017)。このような好悪は侮蔑的な描写に起因していると思われるが他方で、個人がもともと持っている性交渉の経験のない人に対するイメージに起因する部分も少なからずあるだろう。以上より、回答者に提示する性交渉の経験のない女性の年齢を使用変数とする。なお、性交渉の経験のない女性の具体的な設定年齢については後述する。

1.2.2 回答者の性別 若尾 (2013) では、性交渉の経験のない女性に対するイメージに性差があることが示されている。また、若尾・天野 (2012) では、同性目線での性交未経験者に対するイメージで性差があることが示されている。ただし、これらは上述したように大学生を対象としたものである。したがって、大学生以外の年齢層の人々を対象とし、性差を検討することが望まれる。また、両研究ともに性格に限定したイメージを尋ねている。これに対し、男性から見た交際あるいは結婚相手としての魅力という観点から、性交渉の経験のない女性がどのように捉えられるかを検討した研究もみられる (e.g., Honey & Fillion, 2017; Sprecher, Regan, Mckenney,

Maxwell, & Wazienski, 1997)。これを踏まえて、性格特性以外のイメージにおける性差も検討することが望まれる。以上より、性別を使用変数とする。

1.2.3 回答者自身の性交渉の経験の有無 若尾・天野 (2012) では、自身の性交渉の経験の有無が、性交渉の経験のない同性に対するイメージに異なる関連を示すことが明らかにされている。また、劔・山本・松田 (2002) によると、自身の性交渉の経験の有無により、婚前交渉への許容度が異なる。くわえて、性交渉の経験が乏しい人は、自身同様に性交渉の経験の乏しい異性に魅力を感じないことが示されている (Gesselman, Webster, & Garcia, 2014)。このことは、自身の性交渉の経験の有無が、性交渉の経験のない異性に対する評価に影響することを示唆している。以上より、回答者自身の性交渉の経験の有無を使用変数とする。

1.3 性交渉の経験のない女性の設定年齢

若尾 (2013, 2017) は、ある年齢までに初交経験を済ませることを望ましいと捉えることを年齢規範、つまり個人が年齢にふさわしい行動をとることへの期待 (Neugarten, Moore, & Lowe, 1965) の1つであると述べている。この点に鑑み、本リサーチでは年齢規範の観点から、その現われである結婚ならびに出産 (望月・中島・大根田, 1992) という性交渉の経験と関連の深いライフイベントに焦点をあてる。そのうえで、回答者に提示する性交渉の経験のない女性の年齢を25歳、35歳、45歳に設定する。

まず、25歳については、宮崎 (2019) によると、1970年当時の日本社会では、売れ残りのクリスマスケーキが25日を過ぎると安くなることに例えて、「女性は25歳までに結婚すべき」という、「クリスマスケーキ理論」が当たり前のように流布していた。また、株式会社資生堂 (2016) によると、25歳は女性にとって結婚を強く意識し始めるとともに、仕事と結婚の両立に不安を抱えるなど揺れ動く分岐の歳である。本リサーチでは調査対象年齢を20代から70代程度と幅広くとる。このため、クリスマスケーキ理論に馴染みのある世代が含まれる。また上述のように、現在でも25歳は結婚を考える上で重要な分岐点とみなされている。以上より25歳を設定年齢とする

次に35歳については、日本産科婦人科学会 (2013)

は、35歳以上で初めて出産する女性を「高年初産婦」と定義している。このことから、出産という観点において35歳が1つの区切りであるとみなせる。したがって、35歳を設定年齢とする。

最後に45歳については、一般的に一生独身でいる女性の割合がどのくらいを示す指標として用いられる生涯未婚率が、50歳時の未婚率であることから(河野, 2012)、50歳を設定年齢とすることが考えられる。他方、生涯未婚率の50歳という年齢が、女性の再生産年齢(生物学的な意味で親になることが可能な年齢)の最後の歳にあたる(河野, 2012)こと、厚生労働省の特定不妊治療の助成対象年齢の上限が現時点で43歳未満であること、および25歳、35歳の設定年齢との年齢間隔のバランスの点を考慮し、45歳を設定年齢とする。

1.4 性交渉の経験のない女性の定義

本リサーチでは、性交渉の経験のない女性を、「男性と付き合い合ったことがなく、性交渉の経験のない」女性と定義する。性交渉の経験のない女性の中には、今まで男性と付き合い合ったことがあり、キスやペッティングの経験はある女性が含まれる。また、現在男性と付き合い合っているが性交渉に至っていない女性も含まれる。このように、経験したことのある性行為の程度や男性との交際経験を含めた場合と含めなかった場合で、性交渉の経験のない女性に対する回答者のイメージが異なる可能性がある。これに対し、回答者によって想定する性交渉の経験のない女性像が大きく異なりうるような曖昧な表現を避けることが望ましい。したがって、上記のように定義する。

1.5 性交渉の経験のない女性に対するイメージ項目

性交渉の経験のない女性に対するイメージを検討した若尾(2013)、若尾・天野(2012)の研究では、対人能力や動機付けを含む39項目の性格特性を表す形容詞がイメージの測定に用いられている。このため性格に関わらないイメージについての評価は明らかではない。

そこで本リサーチでは、性交渉の経験のない女性に対して人々が抱くイメージを、性格特性に限定することなく幅広く問う。このため、少なくとも実際に人々が性交渉の経験のない女性をどのように捉え

ているかを反映しているインターネット上の複数サイトを参考に質問項目を作成することとした。具体的には、「処女」をキーワードに検索した16サイトの中から、性交渉の経験のない女性の特徴や、そのような女性に対する印象を含む文を計62文抽出した。続いて、これら抽出した文章を以下3つの観点から10項目に絞った(Table 1 参照)。まず、ジェンダー中立的な視点、つまり、男性目線あるいは女性目線といった偏りを最少化する項目となるよう留意した。次に、良いイメージあるいは悪いイメージに過度に偏る項目とならないよう留意した。最後に、性交渉の経験のない女性に対して「~する方がよい」といった個人の意見ではなく、あくまで「イメージ」に相当する項目となるよう留意した。

2. 方法

2.1 調査手続きと調査協力者

ウェブ調査会社を通じ、調査協力者を募集した。具体的には、提示された調査内容を含むページに関心を持ったモニターが回答に進んだ。その際、本調査が性的な内容をテーマとすることを踏まえ、対象年齢の下限を20歳とした。また、倫理的配慮として、質問ページの冒頭で本調査が性的にセンシティブな内容を含むこと、およびそのような内容を不快に思う方は回答を控えてもらうよう記載した。結果得られた200名(男性100名、女性100名、平均年齢50.73歳、 $SD=12.89$)のデータを分析の対象とした。このうち、性交渉の経験の有無でみると、性交渉経験有り(男性91名、女性83名、平均年齢51.90歳、 $SD=12.58$)、性交渉経験無し(男性9名、女性17名、平均年齢42.92歳、 $SD=12.42$)であった。

2.2 質問ページの内容

まず、性交渉の経験のない女性に対して回答者が抱くイメージを問うため、「Aさんは25歳の女性で、これまで男性と付き合い合ったことがなく、性交渉の経験がありません。」という文章を提示した。その後、「あなたが抱くAさんのイメージとして最も当てはまるものを『全く当てはまらない』～『非常に当てはまる』の中から1つ選んで」、回答するよう求めた。この際、本リサーチで作成したイメージ10項目(Table 1 参照)それぞれについて、回答するよう求

めた。また同一回答者に、下線部を B さん 35 歳、ならびに C さん 45 歳と変え、B さん/C さんに対する同各 10 項目のイメージについて、「全く当てはまらない」～「非常に当てはまる」の中から一つ選んで回答するよう求めた。具体的には例えば、「男性や恋愛に対して真面目で慎重である」というイメージが 25 歳、35 歳、45 歳の性交渉の経験のない女性のイメージとしてそれぞれどの程度当てはまるかを、同一回答者に回答するよう求めた。なお、はじめに提示する性交渉の経験のない女性についての文章は、25 歳、35 歳、45 歳の順（昇順）で提示する群と、45 歳、35 歳、25 歳の順（降順）で提示する群を各 100 名で分けることでカウンターバランスをとった。

続いて、回答者自身の性交渉の経験の有無について、「ある」または「ない」のいずれかで回答するよう求めた。

2.3 分析方法

本リサーチで作成した性交渉の経験のない女性に対するイメージ 10 項目それぞれについて、性交渉の経験のない女性の年齢（25 歳、35 歳、45 歳）を参加者内要因、回答者の性別、および回答者の性交渉の経験の有無を参加者間要因とした 3 要因混合計画の分散分析を行った。解析には無料の統計ソフトである HAD ver. 16.0（清水, 2016）を用いた。

3. 結果

性交渉の経験のない女性の年齢、回答者の性別、および回答者の性交渉の経験の有無を独立変数、性交渉の経験のない女性に対するイメージを従属変数とした 3 要因分散分析を行った。具体的には、各要因（性交渉の経験のない女性の年齢、回答者の性別および性交渉の経験の有無）が、性交渉の経験のない女性に対するイメージに及ぼす影響（主効果）、また、要因を組み合わせた際に及ぼす影響（交互作用）を、性交渉の経験のない女性に対するイメージ得点（各イメージごとに得点化したもの）の平均値を用いて検討した。結果を Table 1 に示す。以下では統計的に有意差がみられたものについて述べる。

3.1 主効果について

3.1.1 回答者の性交渉経験 「男性や恋愛に対して

真面目で慎重である」および「男性や恋愛に対して理想が高い」というイメージについていずれも、回答者の性交渉経験に主効果がみられたため（それぞれ、 $F(1, 196) = 6.08, p < .05$; $F(1, 196) = 4.12, p < .05$ ）、多重比較を行った（以下多重比較はすべて Holm 法を用いた）。結果、性交渉のある回答者では性交渉の経験のない回答者よりも、性交渉の経験のない女性に対して、男性や恋愛に対して真面目で慎重である、および男性や恋愛に対して理想が高いというイメージを抱いていることが示された（それぞれ、 $t(196) = 2.47, p < .05$; $t(196) = 2.03, p < .05$ ）。

3.1.2 性交渉の経験のない女性の年齢 「男性を必要としていない」「恋愛を諦めている」「性的魅力に欠ける」「プライドが高い」および「人生がもっていないのでかわいそう」というイメージについていずれも、性交渉の経験のない女性の年齢に主効果がみられた（それぞれ、 $F(2, 394) = 9.45, p < .01$; $F(2, 394) = 18.70, p < .01$; $F(2, 394) = 12.23, p < .01$; $F(2, 394) = 3.82, p < .05$; $F(2, 394) = 3.75, p < .05$ ）。多重比較を行ったところ回答者は、25 歳で性交渉の経験のない女性よりも 35 歳または 45 歳で性交渉の経験のない女性の方が男性を必要としていないというイメージを抱いていることが示された（25 歳と 35 歳、 $t(196) = -2.92, p < .01$; 25 歳と 45 歳、 $t(196) = -4.05, p < .01$ ）。また回答者は、25 歳、35 歳、45 歳と年齢が上がるのに伴い性交渉の経験のない女性は恋愛を諦めているというイメージを抱いていることが示された（25 歳と 35 歳、 $t(196) = -3.16, p < .01$; 25 歳と 45 歳、 $t(196) = -5.01, p < .01$; 35 歳と 45 歳、 $t(196) = -3.32, p < .01$ ）。くわえて、25 歳で性交渉の経験のない女性よりも 35 歳または 45 歳で性交渉の経験のない女性の方が性的魅力に欠けるというイメージを抱いていることが示された（25 歳と 35 歳、 $t(196) = -2.79, p < .05$; 25 歳と 45 歳、 $t(196) = -4.73, p < .01$ ）。さらに、回答者は、25 歳で性交渉の経験のない女性よりも 45 歳で性交渉の経験のない女性に対して人生がもっていないのでかわいそうというイメージを抱いていることが示された（ $t(196) = -2.46, p < .05$ ）。プライドの高さについての回答者のイメージでは、性交渉の経験のない女性の年齢間で有意差はみられなかった。

3.1.3 性別 「性的魅力に欠ける」および「どう接して良いか分からない」イメージについて、回答者

Table 1 性交渉の経験のない女性の年齢、回答者の性別および性交渉の有無を要因とした分散分析結果

質問項目	性別 ^{a)}	性交渉 ^{b)}	性交渉の経験のない女性の年齢 ^{c)}						主効果 (多重比較)	交互作用	単純主効果検定
			25歳		35歳		45歳				
			M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)			
男性や恋愛に対して真面目で慎重である	男性	有	3.52	(0.81)	3.47	(0.64)	3.58	(0.65)	性交渉* (有>無*)	n.s.	
		無	3.33	(0.71)	2.89	(0.93)	3.22	(0.67)			
	女性	有	3.43	(1.01)	3.45	(0.94)	3.45	(0.95)			
		無	2.94	(1.25)	3.00	(1.22)	3.06	(1.25)			
男性や恋愛に対して理想が高い	男性	有	3.19	(0.65)	3.33	(0.75)	3.43	(0.76)	性交渉* (有>無*)	n.s.	
		無	3.00	(0.71)	2.67	(0.50)	3.22	(0.83)			
	女性	有	2.88	(0.93)	3.13	(0.88)	3.22	(0.86)			
		無	2.76	(1.25)	2.82	(1.29)	2.82	(1.29)			
男性を必要としていない	男性	有	2.81	(0.71)	3.01	(0.77)	3.35	(0.89)	性交渉の経験のない女性の年齢** (25歳<35歳*, 25歳<45歳**)	n.s.	
		無	2.56	(0.53)	3.22	(0.67)	3.11	(0.93)			
	女性	有	2.58	(0.87)	2.89	(0.87)	3.01	(1.02)			
		無	2.76	(1.20)	2.82	(1.19)	2.88	(1.22)			
恋愛を諦めている	男性	有	2.53	(0.75)	2.93	(0.73)	3.30	(0.85)	性交渉の経験のない女性の年齢** (25歳<35歳<45歳**)	n.s.	
		無	2.56	(0.53)	3.11	(0.60)	3.22	(0.83)			
	女性	有	2.53	(0.94)	2.82	(0.83)	3.12	(0.90)			
		無	2.71	(1.31)	2.65	(1.27)	3.06	(1.30)			
どう接して良いか分からない	男性	有	3.15	(0.91)	3.24	(0.90)	3.32	(0.91)	性別** (男性>女性**)	n.s.	
		無	3.22	(0.97)	3.33	(0.87)	3.33	(0.87)			
	女性	有	2.86	(1.04)	2.75	(0.95)	2.88	(0.94)			
		無	2.41	(1.12)	2.53	(1.07)	2.47	(1.07)			
性的魅力に欠ける	男性	有	2.85	(0.73)	3.01	(0.74)	3.30	(0.81)	性交渉の経験のない女性の年齢** (25歳<35歳*, 25歳<45歳**)	n.s.	
		無	2.78	(0.97)	3.22	(0.83)	3.33	(0.87)			
	女性	有	2.57	(0.86)	2.77	(0.91)	2.87	(0.91)			
		無	2.59	(1.23)	2.76	(1.20)	2.82	(1.19)			
結婚に向いている	男性	有	3.04	(0.42)	2.82	(0.53)	2.65	(0.74)	性交渉の経験のない女性の年齢**	性交渉の経験のない女性の年齢×性別**	男性において、 25歳>35歳*, 25歳>45歳**
		無	3.00	(0.50)	2.89	(0.93)	2.67	(0.87)			
	女性	有	2.92	(0.83)	2.95	(0.71)	2.81	(0.80)			
		無	2.71	(1.05)	2.53	(1.01)	2.65	(1.11)			
恋愛に向いている	男性	有	2.90	(0.60)	2.63	(0.59)	2.60	(0.73)	n.s.	性交渉の経験のない女性の年齢×性別**	男性において、 25歳>35歳*
		無	2.67	(0.87)	2.56	(0.53)	2.67	(1.12)			
	女性	有	2.73	(0.78)	2.81	(0.83)	2.69	(0.83)			
		無	2.71	(1.05)	2.41	(1.06)	2.53	(1.07)			
プライドが高い	男性	有	3.03	(0.77)	3.12	(0.73)	3.27	(0.86)	性交渉の経験のない女性の年齢*	n.s.	
		無	2.78	(0.97)	3.33	(0.87)	3.22	(0.97)			
	女性	有	2.70	(0.92)	3.08	(0.90)	3.13	(0.89)			
		無	2.76	(1.15)	2.71	(1.21)	2.76	(1.30)			
人生がもったいないのかわいそう	男性	有	2.84	(0.96)	2.97	(0.87)	3.03	(0.84)	性交渉の経験のない女性の年齢* (25歳<45歳*)	n.s.	
		無	3.00	(1.32)	3.00	(1.00)	3.11	(1.17)			
	女性	有	2.64	(0.96)	2.77	(0.99)	2.77	(1.03)			
		無	2.35	(1.17)	2.59	(1.06)	2.65	(1.06)			

注) Mは平均値, (SD)は標準偏差を表す。

注) 多重比較にはHolm法を用いた。

a), b) いずれも回答者についてである。c) は、回答者に提示した架空の女性についてである。

** $p < .01$, * $p < .05$

の性別の主効果がみられた(それぞれ, $F(1, 196) = 4.43, p < .05$; $F(1, 196) = 11.38, p < .01$)。

多重比較を行ったところ, 男性の方が女性よりも性交渉の経験のない女性に対して性的魅力に欠けるというイメージを抱いていることが示された ($t(196) = -2.10, p < .05$)。

また, 男性の方が女性よりも性交渉の経験のない女性にどう接して良いか分からないイメージを抱いていることが示された ($t(196) = -3.38, p < .01$)。

3.2 交互作用: 回答者の性別×性交渉の経験のない女性の年齢

「結婚に向いている」および「恋愛に向いている」というイメージについて, 性交渉の経験のない女性

の年齢と性別で交互作用がみられたため(それぞれ, $F(2, 394) = 4.73, p < .01$; $F(2, 394) = 3.45, p < .05$), 単純主効果検定を行った結果, いずれも男性における, 性交渉の経験のない女性の年齢の単純主効果が有意であった(それぞれ, $F(2, 394) = 8.65, p < .01$; $F(2, 394) = 5.70, p < .01$)。多重比較の結果, 男性では25歳で性交渉の経験のない女性の方が35歳または45歳で性交渉の経験のない女性よりも結婚に向いているというイメージを抱いていることが示された(25歳と35歳, $t(196) = 2.31, p < .05$, 25歳と45歳, $t(196) = 3.00, p < .01$)。同様に男性では, 25歳で性交渉の経験のない女性の方が35歳で性交渉の経験のない女性よりも恋愛に向いているというイメージを抱いていることが示された($t(196) = 2.60, p < .05$)。

4. 考察

本リサーチでは、性交渉の経験のない女性に対するイメージにおいて、その女性の年齢(25歳, 35歳, 45歳)、回答者の性別および回答者自身の性交渉の経験の有無により差があるかを検討した。以下では分散分析の結果を、まず、主効果のみの結果(性交渉の経験のない女性の年齢/回答者の性別/回答者自身の性交渉経験それぞれが独立して性交渉の経験のない女性のイメージに影響している)について考察する。続いて、交互作用がみられた結果(上記3要因の組合せが性交渉の経験のない女性のイメージに影響している)について考察する。

4.1 主効果について

4.1.1 回答者の性交渉経験による差 性交渉のある回答者は性交渉のない回答者よりも、性交渉の経験のない女性は男性や恋愛に対して真面目で慎重である、および男性や恋愛に対して理想が高いというイメージを抱いていることが示された。相模ゴム工業株式会社(2018)によると、20代から60代の男女全世代で初交年齢の平均は20歳前後である。このことから、世代を問わず多くの男女が概ね20歳程度で初交を済ませていることが示唆される。もちろん初交を済ませる理由には個人差があるだろうが、男女ともに、性交渉への好奇心から済ませている人が一定数いることが示されている(土井・伊藤・数見, 2010)。また、女性では相手の求めに応じて行う人が多いことが示されている(高坂・澤村, 2017; 剣他, 2002)。これらから、ある程度平均的な年齢で初交を済ませてきた人にとって、軽い気持ちで初交を済ませず、あるいは流されることなく貞操を維持していることが、真面目で慎重、理想が高いというイメージに反映されたのかもしれない。

4.1.2 性交渉の経験のない女性の年齢による差 回答者は、25歳よりも35歳や45歳で性交渉の経験のない女性は男性を必要としないイメージを抱いていることが示された。また、性交渉の経験のない女性の年齢上昇に伴い、恋愛を諦めているイメージを抱いていることが示された。これに対し、Ghaznavi et al. (2019)の研究において、25歳から39歳の異性間性交渉未経験の男女の約8割が結婚願望

を有していることが報告されている。その上で、このような異性間性交渉未経験者は不本意ながら異性と性的関係を取り結んでいないと示唆している。インターネット上でも、30代や40代で性交渉の経験のない女性の婚活ブログが少なくないように、実際には年齢の上昇にかかわらず性交渉の経験のない女性が恋愛を諦めておらず、また男性との交際を求めていることがうかがえる。

また、回答者は、25歳で性交渉の経験のない女性よりも35歳または45歳で性交渉の経験のない女性の方が性的魅力に欠けるというイメージを抱いていることが示された。年齢に関連する多くの生物学的機能は30歳以前にピークに達し、その後は徐々に低下する(今中, 2019)。これに対応するように、女性の体型は20代がもっとも美しいとされている(ポラ文化研究所, 2001)。そしてここで言う体型の美しさには、性的魅力の指標となるバストやヒップの美しさが含まれている。このようなことから、身体的に性的魅力が高い25歳で性交渉の経験のない女性よりも35歳または45歳で性交渉の経験のない女性は性的魅力に欠けるイメージを抱かれた可能性がある。ただし、加齢に伴い女性の性的魅力が減少するとすれば、性交渉の経験の有無にかかわらず、25歳よりも35歳または45歳の女性は性的魅力に欠けると言える。したがって、性的魅力に欠けるというイメージに「性交渉の経験のない」ことがどの程度影響したかは、25歳、35歳、45歳で性交渉を継続している女性との比較を以て検討することが望まれる。

さらに、回答者は、25歳で性交渉の経験のない女性よりも45歳で性交渉の経験のない女性は人生がもったいないのでかわいそうであるというイメージを抱いていることが示された。異性との性交渉の目的として男女ともに幅広い年齢層で重視されているのが「愛情表現」である(NHK「日本人の性」プロジェクト, 2002)。また、しばしば性交渉の減退と関連して研究対象となる40歳から79歳においても、性交渉をコミュニケーションの手段あるいはコミュニケーションの結果として捉えたり、快楽や楽しいものと捉えるものは男女ともに65%を超えている(堀口他, 2013)。これらから、男女ともに性交渉を、精神的にも身体的にも充足をもたらすものと考えていると言える。そしてそのような考えが、性交渉の経験がないことは人生においてももったいないのでか

わいそうであるというイメージに反映されたと推察される。そのうえで、25歳で性交渉の経験がない女性よりも45歳で性交渉の経験がない女性でそのイメージが強く抱かれたことについて以下が考えられる。すなわち、上述のように45歳で性交渉の経験のない女性は恋愛を諦めており、男性を必要としないイメージが抱かれていることと併せると、そのような女性は今後の人生においても性交渉を経験する可能性は低く、したがって性交渉から得られる充足を享受するのが困難であるとみなされたと考えられる。

4.1.3 性別による差 男性の方が女性よりも性交渉の経験のない女性に対して性的魅力に欠けるというイメージを抱いていることが示された。男性の方が女性よりも「快楽」や「ストレス解消」のために性交渉をする（NHK「日本人の性」プロジェクト、2002）。また、金銭と引き換えの性交渉の許容度も高く（NHK「日本人の性」プロジェクト、2002； 劔他、2002）、愛のないセックスへの許容度も同様に高い（土田、2013）。これらから、男性の方が女性よりも性交渉に対する敷居が低く、性的欲求が刺激される女性であれば、性交渉を望むことが示唆される。翻せば、少なくとも男性の性的欲求を刺激する女性は、男性の性交渉対象になりやすく、結果的に性交渉を経験する機会が増えることになる。そのように考えると、性交渉の経験のない女性は、男性の性的欲求を刺激しないため、男性の性交渉対象になりにくく、結果的に性交渉を経験する機会がない女性とみなしうる。このため、男性では性交渉の経験のない女性に対して性的魅力に欠けるイメージが抱かれたのかもしれない。

また、男性の方が女性よりも性交渉の経験のない女性にどう接して良いか分からないイメージを抱いていることが示された。女性では、性交渉の経験のない女性に対して、自身が同様の立場であった、あるいは現在同様の立場にあることから、そのような女性と自身を重ねて考えることで、気持ちを押し量り対処が可能かもしれない。これに対し男性では、性交渉の経験のない女性の気持ちが想像し難いため、どう接して良いか分からないイメージが抱かれていると考えられる。また、近年、職場などでのセクシャルハラスメントにより厳しい目が向けられるようになり、性的な内容の発言や態度に対して人々が敏感

になっている。セクシャルハラスメントの事案において男性から女性に対するものが多いことと併せて考えると、男性にとって性交渉の経験のない女性は処しづらいイメージがあるのかもしれない。

4.2 交互作用：性別×性交渉の経験のない女性の年齢による差

男性では25歳で性交渉の経験のない女性の方が35歳または45歳で性交渉の経験のない女性よりも結婚に向いているというイメージを抱いていることが示された。近年男性の中には「処女厨」と呼ばれる女性の純潔に過度に固執する人が目立つようになっている（新見、2009）。また、性交渉の経験のない女性と結婚したい男性を対象とした処女限定の婚活サイトも登場している（池田、2014）。このように女性の処女性を期待する男性について、斎藤（2009）は、「処女厨」のようなオタク男性に限ったものではなく、男性一般に言えるとし、男性にはまっさらな状態のものを所有したいという欲望があることをその理由として挙げている。また、Buss（1989）によると、性交渉の経験のない女性は、他の男性との性交渉経験がないため、男性からすると自身の子を産ませる確実性が高まる。また、性交渉の経験のない女性は将来的にも貞操を守ることが期待できる。くわえて、女性には貞節が求められるという性規範からすると（若尾、2017）、性交渉の経験のない女性は高く評価される。このようなことから、性交渉の経験のない女性は、進化学および社会学的視点から、男性にとって結婚相手として望ましいとされる（Sprecher et al., 1997）。以上、男性が結婚相手として性交渉の経験のない女性を好ましいと捉えることを踏まえて、25歳で性交渉の経験のない女性が35歳または45歳で性交渉の経験のない女性よりも結婚に向いているイメージが男性に抱かれたことについて以下が示唆される。すなわち、性交渉の経験がないことが結婚相手として好ましいと捉えられる一方で、生殖可能性という視点に立つと、同じく性交渉の経験のない女性であっても妊娠や出産のリスクが上昇する35歳や45歳よりも25歳の方が高く評価されることが示唆される。このことは、生殖から離れた年齢を含む40から70代を対象にした調査において、女性よりも男性の方が生殖としての性交渉を重視しており（堀口他、2013）、本リサーチではそ

の年代（40 から 70 代）が多く含まれていたことからもうかがえる。

また男性では、25 歳で性交渉の経験のない女性の方が 35 歳で性交渉の経験がない女性よりも恋愛に向いているというイメージを抱いていることが示された。性交渉の経験のない女性は結婚だけでなく、気軽な男女交際においても性交渉の経験が豊富な女性よりも男性に好まれることが示されている (Sprecher et al., 1997)。佐藤 (2018) によると、性交渉の経験のない女性と付き合いたいと思う男性を、同性目線で理解できると考えている男性は少なくない。このようなことから、結婚と恋愛いずれにおいても性交渉の経験がない女性は男性に好意的に捉えられていることが示唆される。他方で、上述の結婚においては、25 歳で性交渉の経験がない女性の方が 45 歳で性交渉の経験のない女性よりも結婚に向いているイメージが抱かれたのに対して、恋愛においては、25 歳で性交渉の経験のない女性と 45 歳で性交渉の経験のない女性の間でイメージに差はなかった。このことから、結婚を前提としないような、つまり生殖可能性を重視しないような男女交際においては、必ずしもより若い性交渉の経験のない女性が男性に好ましいと捉えられるわけではないことが示唆される。

4.3 結論

本リサーチにおいて、人々が性交渉の経験のない女性に対して抱いているイメージと、性交渉の経験のない女性の実情との間に隔たりがあることが示された。相対的に高い年齢で性交渉の経験がない女性は、恋愛を諦め、男性を必要としないイメージが抱かれていた。これに対し、実際には男性との交際を求めている性交渉の経験のない女性が多い (Ghaznavi et al., 2019)。また、相対的に高い年齢で性交渉の経験のない女性は、ネガティブなイメージを抱かれる傾向にあることが示された。他方で、自身に性交渉の経験のある人は、性交渉の経験のない女性に対して、男性や恋愛に対して真面目で慎重、理想が高いといった、文脈によってネガティブにもポジティブにも捉えうるイメージを抱いていることが示された。この点について、どのような場合にネガティブあるいはポジティブな意味合いを有しうるか更なる検討が望まれる。人々が抱くネガティブなイメ

ージを性交渉の経験のない女性が内在化することにより精神的健康が損なわれることに鑑みると (若尾・天野, 2012)、本リサーチで示されたような実情と異なるあるいはネガティブなイメージが是正される必要があるだろう。

また、男性は女性よりも、性交渉の経験のない女性に対して、性的魅力に欠ける、どう接して良いかわからないというイメージを抱いていることが示された。さらに、相対的に低い年齢で性交渉の経験のない女性に対して、結婚や恋愛に向いているというイメージを抱いていることが示された。性交渉の経験がないことをコンプレックスに感じ、悩んでいる女性にとって、恋愛や結婚を考える際、男性から抱かれるイメージは関心事であると思われる。そこで、本リサーチで得られた知見はあくまで、男性が抱いている「性交渉の経験のない女性一般」に対するイメージであることに留意されたい。言い換えると、関係性のある女性 (例えば、女性の知人など) で、性交渉の経験がない人に対するイメージではないことに留意されたい。想定する関係性、距離感により、抱かれるイメージは十分異なりうる。

以上のように、本リサーチでは、どのような人が、性交渉の経験のない女性にどのようなイメージを抱くか、また、性交渉の経験のない女性の年齢によりイメージに差があるかを明らかにした。今後は、得られた知見をもとに、人々が性交渉の経験のない女性に対して抱くイメージの背景要因や、それらイメージに起因する人々の行動や態度を検討するなど、さらなる発展が期待される。その点において、女性の性交未経験者に対する数少ないイメージ研究に寄与しうると言えるだろう。また、データに裏付けされたより信頼性の高い情報として性交渉の経験のない女性に抱かれるイメージを提供することで、性交渉の経験のない女性が自身にとって有益となりうるようなイメージ戦略に役立てることが期待される。

4.4 本リサーチの課題

本リサーチの課題として以下 3 つが挙げられる。

まず、本リサーチにおいて示されたいくつかの結果は、「性交渉の経験のない」ことにより抱かれたイメージであるか、性交渉の経験の有無にかかわらず「ある年齢」の女性全般に抱かれうるイメージであるかが明らかでない。例えば、25 歳よりも 35 歳ま

たは 45 歳で性交渉の経験のない女性の方が性的魅力に欠けるイメージが抱かれていることが示された。これに対し、仮に 30 歳以上の女性は性的魅力に欠けるというイメージがあるとすれば、性交渉の経験の有無にかかわらず本リサーチと同様の結果が出るのが想定される。同様に、結婚あるいは恋愛に向いているというイメージにおいても、「性交渉の経験のない」ことがどの程度重視されたかは更なる検討の余地がある。したがって、同設定年齢で、性交渉を継続している女性を用いて比較することで、「性交渉の経験のない」ことがイメージに及ぼす影響の更なる検討が求められる。

次に、本リサーチで用いたイメージの包括性である。本リサーチで用いたイメージは 10 個と比較的少なく、「性交渉の経験のない女性」のイメージを余すところなく捉えることが出来ているとは言い難い。自由記述による回答から性交渉の経験のない女性に対するイメージを幅広く収集し、質問項目をより充実させる必要があるだろう。

最後に、性交渉の経験のない女性の年齢設定である。本リサーチでは、性交渉の経験のない女性の年齢を 25 歳、35 歳、45 歳の 3 時点とした。全体的に 25 歳と残り 2 年齢とに差がみられるイメージが多かったことを踏まえ、30 歳以上の年齢に絞った上で設定年齢を変化させた際にどのような結果が得られるかを検討することが望まれる。

引用文献

- Buss, D.M. (1989). Sex differences in human mate preferences: Evolutionary hypotheses tested in 37 cultures. *Behavioral and Brain Science*, 12, 1–49.
- 土井 豊・伊藤 常久・数見 隆生 (2010). 男女大学生の性意識・性行動の実態およびその背景要因に関する検討 (その 1) ——男女差を中心として—— 思春期学, 28, 83.
- Gesselman, A.N., Webster, G.D., & Garcia, J.R. (2014). Has virginity lost its virtue? Relationship stigma associated with being asexually inexperienced adult. *Journal of Sex Research*, 54, 202–213.
- Ghaznavi, C., Sakamoto, H., Yoneoka, D., Nomura, S., Shibuya, K., & Ueda, P. (2019). Trends in heterosexual inexperience among young adults in Japan: Analysis of national surveys, 1987–2015. *BMC Public Health*, 19. doi:10.1186/s12889-019-6677-5
- Honey, P. L. & Fillion, C. (2017). Is chastity an obsolete virtue? Contrasting cues of chastity and parental investment for mate evaluation. *Journal of the Evolutionary Studies Consortium*, 8, 77–91.
- 堀口 貞夫・荒木 乳根子・石田 雅巳・大川 玲子・金子 和子・堀口 雅子 (2013). 現在の中高年者の性に関する認識と規範意識 日本性科学会雑誌, 31, 37–44.
- 池田 園子 (2014). ウワサの「処女専用・婚活サイト」。結婚に悩むアラサー処女も 女子 SPA! (<https://joshi-spa.jp/142872>)
- 今中 基晴 (2019). 中高年女性の健康と病気を考える——女性ホルモン、セクシュアリティを中心に——大阪市立大学看護学雑誌, 15, 30–35.
- ジェクス株式会社 (2020). JEX JAPAN SEX SURVEY: 【ジェクス】ジャパン・セックスサーベイ 2020 (<https://www.jfpa.or.jp/sexsurvey2020/>)
- 株式会社資生堂 (2016). 働く 25 歳女子 300 人に聞く、“25 歳女子のイマ”を解き明かすアンケート調査 “25 歳は素敵な大人の女性になるための分岐点”と考える女子は 8 割以上! PRTIMES (<https://prtims.jp/main/html/rd/p/000000679.000005794.html>)
- 河野 稔果 (2012). 時事用語辞典 情報・知識&オピニオン imidas—イミダス (<https://imidas.jp/genre/detail/F-109-0053.html>)
- 高坂 康雄・澤村 いのり (2017). 大学生が恋人とセックス (性行為) をする理由とセックス (性行為) 満足度・関係満足度との関連 青年心理学研究, 29, 29–42.
- 宮崎 智之 (2019). 独身者が陥る帰省ブルー, 親の「結婚しろ」圧力にどう対処するか DIAMOND online (<https://diamond.jp/articles/-/212359?page=3>)
- 望月 葉子・中島 史明・大根田 光男 (1992). 年齢規範の観点からみた青年の将来展望に関する研究——予期された標準的なライフサイクルと職業生活設計をめぐって—— 発達心理学研究, 3, 81–89.
- Neugarten, B. L., Moore, J. W., & Lowe, J. C. (1965). Age norms, age constraints, and adult socialization. *American Journal of Sociology*, 70, 710–717.
- NHK「日本人の性」プロジェクト (2002). NHK 日本人の性行動・性意識 NHK 出版
- 日本産科婦人科学会 (2013). 産科婦人科用語集・用語解説集 改訂第 3 版 日本産科婦人科学会事務局
- 新見 直 (2009). この世は処女かビッチだけ!? 急増する「処女厨」のメンタリティ【1】 サイゾ

- ー (https://www.premiumcyzo.com/modules/member/2009/09/post_6/)
- ポーラ文化研究所 (2001). これまでの調査レポート No.076 「女性の体型の悩み」 (<https://www.cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/report/archive/>)
- 相模ゴム工業株式会社 (2018). ニッポンのセックス 2018 年版 (<https://www.sagami-gomu.co.jp/project/nipponnosex2018/>)
- 齋藤 環 (2009). この世は処女かビッチだけ!? 急増する「処女厨」のメンタリティ【1】サイゾー (https://www.premiumcyzo.com/modules/member/2009/09/post_6/)
- 坂本 晶子 (2014). 日本女性の加齢による体型変化 *Anti-aging medicine*, 10, 910-915.
- 坂田 啓太 (2020). 結婚相談所で処女はいつ伝えるの? 男性からどう見えている? *INNOCENT* (<https://innocent-bridal.com/archives/7367>)
- 佐藤 俊治 (2018). つきあうならやっぱり処女か童貞!? 男女で意識の差が顕著に *SIRABEE* (<https://sirabee.com/2018/09/24/20161766954/>)
- 清水 裕士 (2016). フリーの統計分析ソフト HAD ——機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案—— *メディア・情報・コミュニケーション研究*, 1, 59-73.
- Sprecher, S., Regan, P.C., Mckenney, K., Maxwell, K., & Wazienski, R. (1997). Preferred level of sexual experience in a date of mate: The merger of two methodologies. *Journal of Sex Research*, 34, 327-337
- 土田 陽子 (2013). 高校生・大学生の避妊に関する意識と行動——避妊行動の文化に着目して—— *日本性教育協会 (編) 「若者の性」白書第 7 回——青少年の性行動全国調査報告——* (pp.121-139) 小学館
- 劔 陽子・山本 美佐子・松田 晋哉 (2002). 北九州市内の高校 3 校における性意識・性行動調査 *日本衛生学雑誌*, 56, 664-672.
- 米倉 奈津子 (2017). 『オトナ高校』、童貞と処女を侮蔑&差別連発に批判噴出... 「君たちは腐ったチェリーです」 *Business Journal* (https://biz-journal.jp/2017/10/post_20958.html)
- 若尾 良徳 (2013). 大学生における性交経験者・未経験者に対する人物特性イメージの検討——イメージされた性別による差異の検討—— *浜松学院大学研究論集*, 9, 37-48.
- 若尾良徳 (2014). 恋愛に関する心理学研究の展望——異性交際から疎外された若者へのライフコースからのアプローチ—— *浜松学院大学研究論集*, 10, 59-77.
- 若尾良徳 (2017). 大学生における異性交際の経験年齢に関する規範意識 *日本体育大学紀要*, 47, 35-44.
- 若尾 良徳・天野 陽一 (2012). 性交経験者・未経験者に対するイメージが大学生の精神的健康に及ぼす影響——性別によるパターンの違いの検討—— *思春期学*, 30, 155-168.